

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第38回】

「ゆうやけサポート」と「サタデーサポート」 ——地域の絆が広がって——

さいたま市立高砂小学校長 木村 栄二

月曜日と木曜日、一日の授業が終わってしばらくすると、校舎1階の生活科室が活気づきます。まず、最初の訪問者はランドセルを背負ったニコニコ顔の1年生です。やがて、2年生、3年生と上級生がやってきて、「ゆうやけサポート」が始まります。

「ゆうやけサポート(放課後子ども教室)」は、平成19年5月に始まりました。この活動の基盤となったのが、平成16年5月から始まった学校週5日制に対応するための「サタデーサポート(土曜子ども居場所づくり)」でした。これまでの土曜日の活動に放課後が加わることで、それぞれの活動が特色をもち、目的が明確になりました。さらには、多様なニーズにも応えることになりました。

まず、「ゆうやけサポート」では、月曜と木曜の2時から5時まで、子どもたちが選択できる多彩な活動が展開されています。今日出された宿題に取り組む子、準備されているプリントを選んでチャレンジする子、お手玉など昔遊びに興じる子、そして、校庭や体育館でサッカーなどのボール遊びに熱中する子等々、世話をするボランティアの地域の方々と一緒に、子ども自身がメニューを選びながら、夕方まで活動が続きます。5・6年生は、低学年の面倒を見るボランティアの役割も担っています。やがて5時近くなると、お迎えの時間です。

一方、「サタデーサポート」では、土曜日のほか夏季休業中に、サイエンス体験、スポーツ教室、工作体験等々のテーマ性のある特別企画的な活動を展開しています。平成21年度は、地域の岸中学校や浦和第一女子高校での「サイエンス体験教室」、「日食を見よう」、「国立科学博物館体験見学会」、「工芸教室」、「お菓子教室」、「子ども相撲教室」などが開催されました。

この二つの活動を中心に行っているのが、サタデーサポート・ゆうやけサポート協議会です。協議会運営には、地域の青少年育成会が主に当たっています。

「ゆうやけサポート」で実際に活動しているのは、主にPTAのOBでもある、子どもたちがちょうど孫年齢になる高砂地区青少年育成会や地域の方々です。加えて、学習アドバイザーとして本校教員OBと、地域に住む大学生や浦和第一女子高校の生徒もボランティアとして参加しています。年間75回前後、1回60～80名(全校児童840名)の子どもに参加に対して、20名前後の協力ボランティアで対応しています。

「サタデーサポート」は、協議会の企画のもとで主にPTA有志が運営に携わっています。講師は、地域の特別ゲストや教師のほか、科学教室などでは中学生、高校生が当たることもあります。年間20回前後、1回70～120名の定員で実施しています。

都市化が進む中で、地域の教育力の低下が懸念されています。人の絆が希薄になってきている現代社会ですが、こうした異年齢交流を通して、子どもたちには思いやりや感謝の心が育ち、地域には世代を超えた絆が広がっています。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第136号に掲載)